

計画停電除外区域の指定に関する要望書(案)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0という大地震と想像を絶する大津波により広範囲にわたり甚大な被害を及ぼしました。

また、この大地震と大津波の影響により福島原子力発電所が崩壊し、電力の供給機能が麻痺したことによる東京電力管内の産業界から個人に至るまで多大な影響を与え、電力不足を補うための計画停電が実施されました。

この東京電力の計画停電は、国民の足となる鉄道機関の運休をひきおこし利用者に不便を与えたばかりでなく、当町における宿泊施設への電力の安定供給がままならず、宿泊予約のキャンセルや観光客の減少が相次ぎ、旅館やホテルを一時的に閉鎖せざるを得ない事業所が多く、当町の観光産業に深刻な影響を与えています。

4月以降この計画停電は当面見送られることとなりましたが、夏の電力需要の増加の回避は難しく、仮に計画停電が実施された場合は、夏が観光のトップシーズンとなる国際観光地一箱根にとって大きな打撃を受けることが懸念されるものです。

つきましては、観光庁長官が、経済の活性化や被災地支援のため、積極的に観光を推進するよう各道府県知事や観光関係団体に要請していますが、夏場の計画停電は、観光産業を基盤とする当町にとって死活問題となることから、夏場における計画停電を実施する際には、箱根町全体を計画停電除外区域と指定されることを強く要望いたします。

東京電力株式会社
取締役社長 清水正孝 様

箱根町議会議長 折橋尚道

特急ロマンスカーの平常運行を求める要望書

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0という大地震と想像を絶する大津波により広範囲にわたり甚大な被害を及ぼしました。

また、この震災による福島第一原子力発電所の崩壊は、電力の供給不足を招き、東京電力管内では産業界から個人に至るまで、多大な影響を受けています。

これは、当町の観光産業においても例外ではなく、宿泊施設においては不安定な電力供給のため、宿泊予約のキャンセルや観光客の減少が相次ぎ、旅館やホテルを一時的に閉鎖せざるを得ない状況に追い込まれた事業者も見受けられるなど大変深刻な事態に陥っています。特に、箱根町の観光産業の重要な役割を担っている貴社の特急ロマンスカーが運休になってしまったことは大きな痛手となりました。

このような中、4月以降の計画停電は見送られることとなり、貴社におかれましては4月16日から特急ロマンスカーの臨時運行を、また、5月からは平常運転に近い状況で運行していただきましたことに対し、感謝しているものであります。

つきましては、節電が求められている今、万が一、計画停電や節電を実施しなければならなくなった場合には、夏季から秋季にかけての観光シーズンにおいては、出来得る限り特急ロマンスカーの平常運転に近い運行につきましてご配慮くださいますようお願いいたします。

平成23年5月17日

小田急電鉄株式会社
取締役社長 大須賀 頼彦 様

箱根町議会議長 折橋尚道

議会諸活動報告

○議会全員協議会

・平成23年3月25日
全員協議会を開催いたしました。町側から震災後の対応等について報告を受けました。



全員協議会

・平成23年4月6日

人事異動について報告を受け、併せて3月定例会後に報告を受ける予定だった案件等の報告も受けました。

○箱根町議会東日本大震災対策協議会

・平成23年4月6日

12日・20日・25日
東日本大震災の被災者への対応や2次被害を受けている箱根町民への対応を協議し、町に要望書を提出しました。

※内容は6〜8ページ参照



対策協議会

編集後記

3月定例会も中盤に差し掛かった3月11日、予算審議の休憩中に私達は突然の地震に襲われました。今までに感じたことのない大きな揺れ。私はその場に立っていることも出来ず、思わずしゃがみ込んでしまいました。長い揺れが収まり時間が経つにつれ明らかにする東日本の状況、想像を絶する被害に私は言葉を失い

ました。復興へ向け、被災した自治体で働く職員の報道を目にした時には、自分がその立場であったら、途方にくれてしまわないだろうかという焦燥感におそわれました。

しかし、この千年に一度あるかないかの巨大震災の絶望の中から、一筋の光を求め乗り越えようとする被災者の姿を見て、私達も出来る限りの形で東日本大震災復興支援に協力してい

たいと思えました。

箱根も震災以来、2次被害ともいうべき厳しい現実が立たされておりますが、今後の消費者心理の変化に期待し、議員一同一丸となり再建に努力していきたいと思えます。(石川 記)

議会だより編集委員会

- 委員長 村野由紀子
- 副委員長 稲葉親太郎
- 委員 石川 栄
- 委員 遠藤 秀則